

情報連絡員報告を中心とした
県内の中小企業動向
&トピックス・9月

■パン製造

市町村によっては「米粉パン」の導入を要請してきている。

■味噌製造

出荷は増加したが、年末に向けては仕込み量の増加により在庫増につながった。

■製材

千葉県では有限責任中間法人千葉県木材振興協会、千葉県森林組合連合会並びに千葉県木材市場協同組合の三者で「違法伐採対策に係る行動規範」と「ちばの木認証制度」を立ち上げることとなり平成18年10月16日施行する予定である。

■印刷

今年には官公需の影響からか低迷したままで盛り上がりがない。原油の値上がりにより化学製品関係（刷貼フィルム等）の値上がりがあり、紙は10月より10〜15%程度の値上げの通知があったが、需給バランスが悪く苦慮している。但し、合成紙は10%の上昇である。

■電気鍍金

新内閣になり、これで経済が好況になることを期待している。幾分、前年より引き合いが多いよう

だが、価格は上昇していない。又諸材料が高騰してきているので収益を圧迫している。

■建築材料卸売

大企業と一部先端業種は好況を呈しているようだが、建設関連は回復の兆しなし。仕事が出ても極端な安値のため、収益的には全然回復感はない。災害復旧で一部地方では特需が見込まれるが首都圏の中では、千葉県はもともと需要が減退している県と位置づけられている。

■自動車解体

セメントメーカーは原燃料・輸送費などのコストアップを転嫁するために減産して在庫調整後に再度値上げという強硬姿勢である。これにより在庫逼迫が常態となりつつあり徐々に値上げが進行している。販売店は需要減と値上げ攻勢のために収益悪化の一途をたどり金利上昇などもあり、事業縮小や転廃業が相次いでいる。

■自動車解体

前月と同様、新車販売の低迷や稼働日数が少ないにもかかわらず、入庫車両は前年同月比をわずかに上回った。それにもかかわらず業界全体の雰囲気は良く無い。自動車リサイクル法の施行を契機に、明らかに競争が激しくなっており、従来どおりの取り組み方や努力のみではなかなか利益を上げられない

い環境になってきた。その変化を敏感に感じ取っているのかもしれない。

■食肉卸売

7月に行われた、産業構造審議会と中央環境審議会の合同会議において、一時抹消されたままの車両の追跡調査について、国土交通省から実施する旨の答弁が行われた。8月1日に業界団体である日本ELVリサイクル機構の事務所において、国土交通省の担当官と経済産業省の自動車リサイクル担当を交えて、自動車解体業界との意見交換が行われた。

■電気機器小売

サツカアのW杯不振により引き続きデジタル家電は不調。薄型テレビの単価ダウンが大きく影響して、引き続き消費者の買い控を招いている。

■小売

売上高対前年比94・9% 客数95・8%
売上高対前月比93・2% 客数97・0%

■中古車仕入・販売

9月中旬から下旬にかけての直販動向は横ばい以上のペースで推移したが、手ごたえは依然として今ひと息の状態。先行きは期待と

不安が交錯しており、タマ不足には歯止めが掛かったものの、引き合いは慎重である。

■小売

今年は、天候不順で8月末から9月中旬にかけての稲刈りの時期がずれ込んでしまい、土日の集客に影響した。運動会シーズンでもあり、食品関係は多少の動きは見られた。しかし秋晴れの日があまりなく、消費意欲も減少気味で全般的に耐える月であった。

■小売

秋物衣料の売上が伸びない。景気が上向いているといわれているのに、実感として感じられない。

■農業機械販売整備

新農政の経済所得安定対策事業で認定農業者や集落営業組織の推進により農機需要の冷え込みが急ピッチに進んでいる。また来年10月1日より農機排出ガス規制が開始される。

■小売・サービス

今年秋の米作況は96でやや不作だった。これは長雨、日照不足が原因で、今年の農繁期は新品農機の動きが悪い。例年9月上旬が山場で推移するのが10月までずれ込み、だからだと彼岸過ぎまでかかってしまった。その割に重装備も芳しくなかった。

市内に今年オープンしたカスミ、カウチ、カインズの影響が本格的に出てきている。

■建設

このような折に、中心市街地の活性化を取り戻そうと、商店街主導で、かつての「アリの市」を復活して夜祭を行うべく準備を進めている。

■建設

操業度は前月同様、地域・業者間で格差が出てきている。燃料費の高騰で遠方の作業は敬遠（採算が合わない）されている。

■建設

当連合会加入組合員の官公庁（国、県、市町村）からの受注は81億3900万円であった。前月比では、14億1900万円の増加であったが、前年同月比では△23億9000万円と6ヶ月続けての減少となった。

■貨物運送

雨が多くて、農作物の出荷が減少したため、運送業の方もあまり良くなかった。タクシー等は、県単位で料金の見直しなどを考えているようだがトラック業界はそういったまとまった行動が出来ないため運賃も下がったままである。

■小売・サービス

このように、中心市街地の活性化を取り戻そうと、商店街主導で、かつての「アリの市」を復活して夜祭を行うべく準備を進めている。